

沈香木葉エキスに便秘改善作用

サプリメント素材で事業化へ

5年後2億円めざす

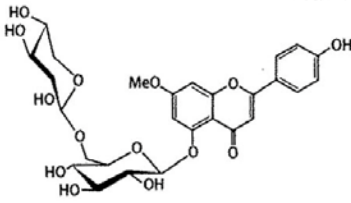
健康補助食品OEMメーカーのアピ(本社・岐阜市、野々垣孝彦社長)と岐阜薬科大学は共同で、シンチヨウゲ科植物シンコウボク(沈香木)の葉から便秘を穏やかに改善させる機能性食品素材の開発に成功した。刺激性下剤など従来から知られている漢方成分の作用とまったく異なる、腸管の収縮運動にかか

アピ 岐阜薬科大

わる神経伝達物質アセチルコリン様作用を示し、蠕動運動を促進。下痢症状をともなわずに排便回数が増えることが臨床試験などにより確認された。活性成分を特定し、葉エキスの大量抽出技術を確立できたことから、サプリメント用素材として事業化する。同社では、5年後売上高2億円を目指す。

新しい機能性食品素材「析学研究室の原英彰教授」アピが実用化に向けた天然資源の有効利用開発

ロジエクトを立ち上げ、共同で進めてきた。現在、便秘改善に利用されるものには医薬品と



造式(上) 沈香木の葉

食品がある。医薬品では、ヒサコジル、センナ、ダイオウなど原料とする、腸管を直接刺激させるタイプの刺激性下剤が知られる。また食品群は副作用がないか少ない、ヒフィ

臨床試験を便秘傾向の成人男女60人を対象に、2週間の二重盲検クロスオーバー試験として実施。1日当たり600mgの含有食品を摂取してもらい、疑似食品との比較で、排便回数、排便量で有意差

アピは、食物繊維がある。新食品素材はこれらと異なる作用メカニズムを示し、腸の筋収縮を助成させるアセチルコリン受容体に働き、蠕動運動を穏やかに促進させる。動物実験では持続的な便秘改善作用が見いだされた。作用を持つ活性成分を調べたとろろ、ゲンクワニン配糖体と呼ばれる成分であることが特定。収縮すると腹痛をともなう結果ではなく、痛みのない回腸に同成分が刺激を及ぼしていた。この結果、副作用の少ないことがわかった。

が認められ、改善機能に優れていることが示された。安全性試験を行い問題のないことが確認できた。アピでは量産化技術を生かし、得たエキスを加工。ドリンク製剤、錠剤、顆粒製剤などの試作品を開発しており、水無し服用可能な製剤化も開発を進める考え。特定保健用食品の許可申請も視

野にサプリメント、飲料素材として事業化を決めた。沈香木は、高級緑香など香の原材料となる香木。東南アジア地域に数十種類分布し、天然木は現在ワシントン条約により希少品目第一種に指定され、輸出入できず、もっぱら栽培された木が取引されている。一方、薬増進のための茶葉として利用されている。